



島立探訪

島立の道と水

旧野麦街道の痕跡

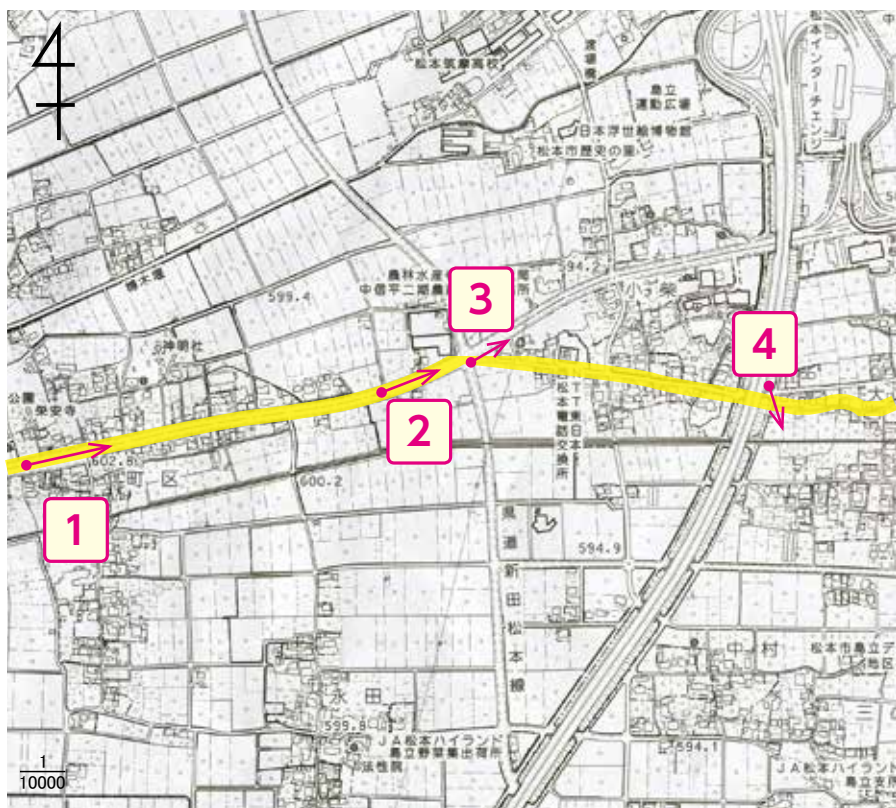
かつて飛騨と信濃を結ぶ重要路であった野麦街道は中間点に野麦峠があり、高山・峠間 44 km、峠・松本間 48 km の道程があります。館報前号と内容が重複しますが、高山からは能登駒、越中木綿、富山の薬など、松本からは足袋、菓子、曲げ物細工などの物資が運ばれていました。昭和 9 年に国鉄高山線が全通すると貨客の大量輸送が可能となり、峠の往来は減ってしまいました。『ふるさと松本』（郷土出版社）189 頁を参考）

交通手段が人馬から自動車へと移る過程でこの旧街道も姿を変えたと考えられます。今回の「島立探訪」では地区内を西から東へ通過する旧街道筋を地図と写真を眺めながら痕跡をたどってまいります。旧街道は国道 158 号と旧国道に大体重なっていますが重ならない区間もあります。波田を過ぎ新村から島立に入った旧街道は国道と重なった状態で東に向かいます。「島立町区」交差点の手前には不自然な形の駐車帯（写真①）が存在します。国道の 4 車線化の際に旧街道が重なる国道は鉤の手（榊形）の形状を含んだ状況にあり、この 4 車線道路の計画において余地残存となったようです。（近年発行された『松本市史第二巻 歴史編Ⅱ近世』の 112 頁には、渚、荒井、島立（当地点のこと）、北新などには鉤の手（榊形）がみられるとの記述あり）榊形と云えば城郭への出入り口の形状ですが当地の場合は何か意図があったのでしょうか。

ここから旧街道は国道と重なって東進し（写真②）分岐点である「町区東」交差点（写真③）に差し掛かります。交通量が多いため旧国道への斜め進入がし難い交差点です。分岐後、旧街道は旧国道に重なって小柴集落を通過、長野

平成 28 年 9 月 1 日現在

世帯数	2,838 世帯
男	3,422 人
女	3,540 人
総人口	6,962 人



自動車道を立体交差するあたりから南に逸れ、自動車道の敷地に埋没、東側の側道(写真④)から再び姿を現します。ここからは大庭の集落を蛇行しながら東進し(写真⑤)簡易郵便局南で旧県道に出合います。ここを左折し40m程先を右折(写真⑥)して旧街道は進んでまいります。郵便ポストのあるこの交差点から先程の立体交差までの区間は旧国道の新道部分と考えられます。右折した旧街道は旧国道と重なった状態で60m程東に進み、大庭集落の東端あたりで右に逸れ(写真⑦)家屋の南を迂回したのち旧国道を斜め横断(写真⑧)、堀米集落へと入ってゆきます。交差点から80m程先で左折、さらに30m程先の高札場跡と道標のある堀米集落の辻(写真⑨)を右折、県合同庁舎から南へ開通した市道と交差(写真⑩)し荒井集落へ向かいます。交差から80m程先で再び旧国道と合流(写真⑬逆方向より)した旧街道は荒井集落中心部の交差点を左折、直後に右折しました旧国道に合流します。この地点も鉤の手(楨形)となっており、この部分の道路は短絡され現在に至っています。(写真⑫)旧街道

はこの先東進し地区境の奈良井川を渡り渚、田川を渡り中上、伊勢町を経て「牛つなぎ石」のある本町通り(善光寺街道(北国脇往還))との交差点で高山からの終点となります。旧街道の線形は思った以上に直線ではなく特に集落の部分では屈曲していることが判明しました。人馬から自動車へと交通手段が変わり経済等様々な要因により街道は直線化、短絡化あるいは新道開道と形を変えてきました。「島立探訪」の項目の一つとして地区内の野麦街道について調査してまいりましたが、山本茂美著『あ、野麦峠』で名が知られた感もある街道について資料や文献は乏しく殆ど無いことに大変驚いた次第です。今後の調査研究に期待を寄せたいと思います。最後に「野麦」についての説明です。『あ、野麦峠』の冒頭には「野麦」とは野生の麦のことではなく、峠一面をおおっているクマザサのことで大凶作の年に根元から細かい穂先のようなものが現れ結実、これを飛騨では「野麦」といい、この実を粉にして団子を作り飢えを凌いだとの記述がありました。

